

序 文

実験動物技術者のような創薬のために必要な人材を育成するために、九州保健福祉大学薬学部動物生命薬科学科が平成20年度に開設されました。実験動物学を学修することは、動物についての、特に動物の疾病および創傷についての専門家になることを意味します。したがって、動物に興味をもつ大学受験生がこの学科に集まり、実際に、平成23年度および24年度卒業生のうち、動物に関する職業に就いた卒業生が多くおりました。

その一方で、動物に関する博物館、すなわち動物園、水族館、自然科学系博物館等における学芸員として教育および研究に携わることを希望する学生や大学受験生が多くいました。その期待に応え、九州保健福祉大学学芸員養成課程が平成21年度にこの学科に設置されました。平成23年度卒業生のうち、動物園に就職することのできた卒業生が1名おりました。

この学芸員養成課程が発刊するこの「九州保健福祉大学博物館学年報」は、平成23年度に発刊され、この度は第3号となります。この学芸員養成課程が配置する科目につきましては、第1号および第2号において紹介してまいりました。

それらの配置科目のうち、4年次科目「博物館実習」は、今年度で3年目を迎えました。この科目においては、毎年テーマを変えて学生たちが展示を行っております。初年度に当たる平成23年度には「タヌキ展」を、平成24年度には「動物園があった時代(ころ)」を、そして平成25年度には「アカウミガメが来るトコロ」を開催しました。これらの展示を見ますと、学生たちの成長ぶりを感じ、この学科の教育者としてたいへん嬉しく思うところでございます。

このように過ぎた日々を振り返りますと、この学芸員養成課程の教育は、極めて多くのさまざまな方々のご理解およびご協力の上に成り立っていることが思い起こされます。ここに、感謝の気持ちを申し上げますとともに、今後、なお一層のご指導ご鞭撻のお願いをも申し上げ、序文の言葉といたします。

平成26年3月

九州保健福祉大学薬学部
動物生命薬科学科長 加藤 雅彦